

## 今増え続ける SNS トラブルについて

香川県立観音寺第一高等学校 1年 藤田史佳

今、SNS は私たちの間においてコミュニケーションを図る大切なツールとなっている。実際に、私のクラスでは、クラスメイトが全員加入しているグループ LINE がある。そこでは、クラス内での連絡をしたり、行事についての連絡をしたりする。また、Twitter や、Instagram で友達と情報を共有したり、遠く離れたところに住んでいる趣味の合う人といろいろな情報を共有したりする。

このようなことから、SNS はとても便利なものだと思われがちだ。しかし、少し使い方を誤ると、取り返しのつかないことになることもしばしばある。SNS についてのトラブルの例として、「自分の発言が自分の意図とは異なる意味で他人にうけとられてしまった。(誤解)」、「自分では軽い冗談のつもりで書き込んだが、他人を傷つけてしまった。」、「ネット上で他人と言い合いになったことがある。(けんか)」、「自分の意思とは関係なく、自分について(個人情報、写真など)他人に公開されてしまった。(暴露)」、「自分は匿名のつもりで投稿したが、他人から自分の名前などを公開されてしまった。(特定)」、「自分の書いた内容に対して複数の人から批判的な書き込みをされた。(炎上)」、「他人が自分になりすまして書き込みをした。(なりすまし)」、「自分のアカウントが乗っ取られた結果、入金や商品の購入を促す不審なメールを他人に送ってしまった」などがある。テレビのニュース番組でも SNS トラブルについてしばしば放送されている。では、なぜ SNS についてのトラブルは後が絶えないのだろうか。

私は、SNS を利用している人達の当事者意識が足りないからだと思う。なぜなら、テレビ番組でしばしば放送されているにもかかわらず、それをみても、「私には関係ない」、「私は大丈夫だから」などと思っている人が多いと思うからだ。実際、SNS を利用している人たちの中で、SNS についてのトラブルにあう人はごくわずかである。しかし、だれにだって、SNS についてのトラブルに巻き込まれる可能性はあるのだ。

私は、Twitter と Instagram を利用している。私から情報を発信することはあまりないが、知り合いや他人が発信した情報を見ることはよくある。そこで、よく目にするのが、他人の書いた内容に対して、批判的なメッセージを送信して、最終的には口論となっている人達だ。発信された情報が情報モラルに反しているわけではないし、その書き込みに対するリプライも、多くは、その書き込みに同情する意見のもの、もし、反対意見を述べていたとしても、自分の意見を適切な言葉を用いて返信されたものなどである。しかし、時に、相手を傷つけるような文面で返信している人を見かける。そして、書き込みをした人と SNS 上でけんかになっている。私はそれらのやり取りを見て、匿名だから、全然知らない人だからと言って、やっていいことと悪いことがあるのに、どうしてこのようなやり取りをしているのだろうかという疑問に思った。これらのトラブルにかかわっている人達は、自分たちがトラブルを起こしているという自覚はあるのだろうか。きっと、

その人達はニュースや、新聞などで SNS のトラブルについて取り上げられていても、「自分には関係ない」などと他人事としてとらえていたのではないか。だからこそ、このようにしてトラブルが発生するのではないかと思う。私は、たまに Twitter や、Instagram に書き込みをすることがある。そのとき、私は、SNS 上に自分の情報を書き込む前に、何度も見直しをするようにしている。その時に確認していることは 3 つあり、1 つ目は、自分の発信しようとしている文の中に、間違えた情報は含まれていないかということだ。2 つ目は、その情報の中に、自分の、また他人の個人情報が含まれていないかということだ。3 つめは、その情報に他人を傷つける内容は含まれていないかということだ。これらのことを考えて私は SNS 上に書き込みをしている。ほかに、目にするトラブルは、アカウントが乗っ取られて、自分の発信したくない情報を勝手に発信されている人だ。私はまだアカウントが乗っ取られたことがないが、私の周りには、アカウントが乗っ取られて、変な情報が発信された人が数人いる。身に覚えのないものが自分のアカウントでリツイートされていたり、アダルトな内容のものが発信されていたりした。また、それによって、アカウントを新しく作成しなくてはならなくなった人もいる。私はまだアカウントが乗っ取られないようにするための対策を特に行ってなかった。このトラブルに対しては、正直私には起こり得ないものだと思っていた。だから、特に対策を行っていなかった私自身、当事者意識が足りないと思反省する出来事だった。

今までに述べたものから、SNS がとても危険なものだと考える人もいるのかもしれない。しかし、はじめに述べた通り、SNS には便利な面もたくさんあると思う。例えば、自分の好きなものを発信し、それがきっかけで、趣味の合う人を見つけて中を深めることもできたり、遠く離れた人と、簡単に情報を共有することができたりする。また、SNS も、様々な形でトラブルの対策を行っている。例えば、自分のアカウントを特定の人だけに公開するようにする設定や、自分のプロフィールの非公開設定や、位置情報を無効にする設定や、不適切な情報を表示しない設定などを設けて、SNS のトラブルを減らそうと努力している。また、SNS 上で、何らかの情報を検索する際に、特定のキーワードを除外して検索するように設定することや、他人のアカウントをブロックしてその人から自分のアカウントを見られないように設定することもできる。それでも、SNS のトラブルが後を絶えないのは、やはり、「自分は大丈夫だ」、「自分には関係ない」などと自分に起こってもおかしくない重大な問題として捉えていて、それらの設定を行っていない、すなわち SNS を利用している人達の当事者意識が足りないからだと思う。

SNS を利用する人たちがほんの少しのことに気を付けるだけで、SNS のトラブルは大きく減少すると思う。世界中の人と気軽につながることでできる便利なツールがあるのだから、それらを正しく活用するためにも、自分の発信する情報がモラルに反するものではないかを確認することが大事である。たとえ、面倒に思う人がいても、それらの作業はとても大切なものである。SNS のトラブルは、事前に防ぐことのできるものがほとんどであると思うから、その作業はしっかりするべきであると思う。また、もし、SNS のトラブルに巻き込まれそうになったら、

まずは、周りの人に相談すべきである。まだ完全にトラブルに巻き込まれていないのならば、誰かに相談することで、トラブルを未然に防ぐことができるかもしれない。また、周りの人が SNS のトラブルに巻き込まれそうになっている人がいることに気づいたら、その人に伝えてあげることが大事である。たとえ、それが自分の勘違いであったとしても、それが両者の SNS のトラブルについて考え直すきっかけになるかもしれない。本来の SNS の役割を改めて考えて、世界中の多くの人々が SNS を有効に活用できる社会を一人ひとりが作っていくことが、今の私たちの課題だと思う。

■参考文献

出典：総務省 情報通信白書 平成 27 年度